

第 32 回日本助産学会学術集会ワークショップ

「第 1 回 研究を始めよう！ 臨床疑問を研究テーマに～文献検討のいろは～」報告書

1. 日時：2018 年 3 月 3 日（土）15：30～17：00

2. 目標・目的

参加者が、研究の開始から文献検討までの理論的基盤の理解から実施についてイメージでき、看護研究の実施につなげられることを目的とする。長期的には、論文投稿数の増加と投稿論文の質の向上を目指す。

3. 内容

[司会] 江藤宏美

[話題提供 1] 助産実践から導き出される看護研究、助産実践での研究とは、研究テーマの選択、文献検討とは何か、その必要性：中村幸代

[話題提供 2] 文献検討の実際、研究疑問からキーワードの絞り方、PubMed と医学中央雑誌（医中誌）を使った検索方法の実際、検索した論文のまとめ方と活用方法：大田えりか

[質疑応答・ディスカッション]

4. アンケート結果

アンケートの回収数は 103 部であった（資料参照）。

[参加者の背景] 年齢 20～30 歳代 43%、40～50 歳代 54%、会員歴は、5 年未満 32%、5～10 年未満 13%、非会員 38%であった。投稿経験を有する者は 19%、査読経験者は 9%であった。所属は、教育研究機関 34 名、病院 31 名、大学院修士（助産学研究コース）8 名、大学院修士（助産師養成コース）6 名、その他（大学生、助産所、大学院博士）であった。

[満足度・理解度] 5 段階評価で回答を求めたところ、①研究テーマの選択、②文献検討の意味と必要性、③研究疑問からキーワードの絞り方、④文献の検索方法、⑤検索した論文のまとめ方の 5 つの視点共に 4.3～4.7 であった。

[自由記述] 文献収集から研究課題の明確化がよくわかった、研究テーマの絞り方を学べた、文献保存の方法・Evernote の活用など文献検討のまとめ方が参考になったと概ね肯定的な意見であった。また、スライド内容の資料配布の希望、時間が少し短かった、具体例を示して欲しかったなどの要望や初学者向けであることを差し引いても易しすぎるという意見もあった。

[希望するワークショップのテーマ] リサーチクエスションの作り方、文献クリティーク、査読の視点、研究結果のまとめ方、統計解析のコツ、質的研究、事例研究、系統的レビュー、投稿に関すること、研究者の体験談などであった。また、レベル別の実施希望もあった。

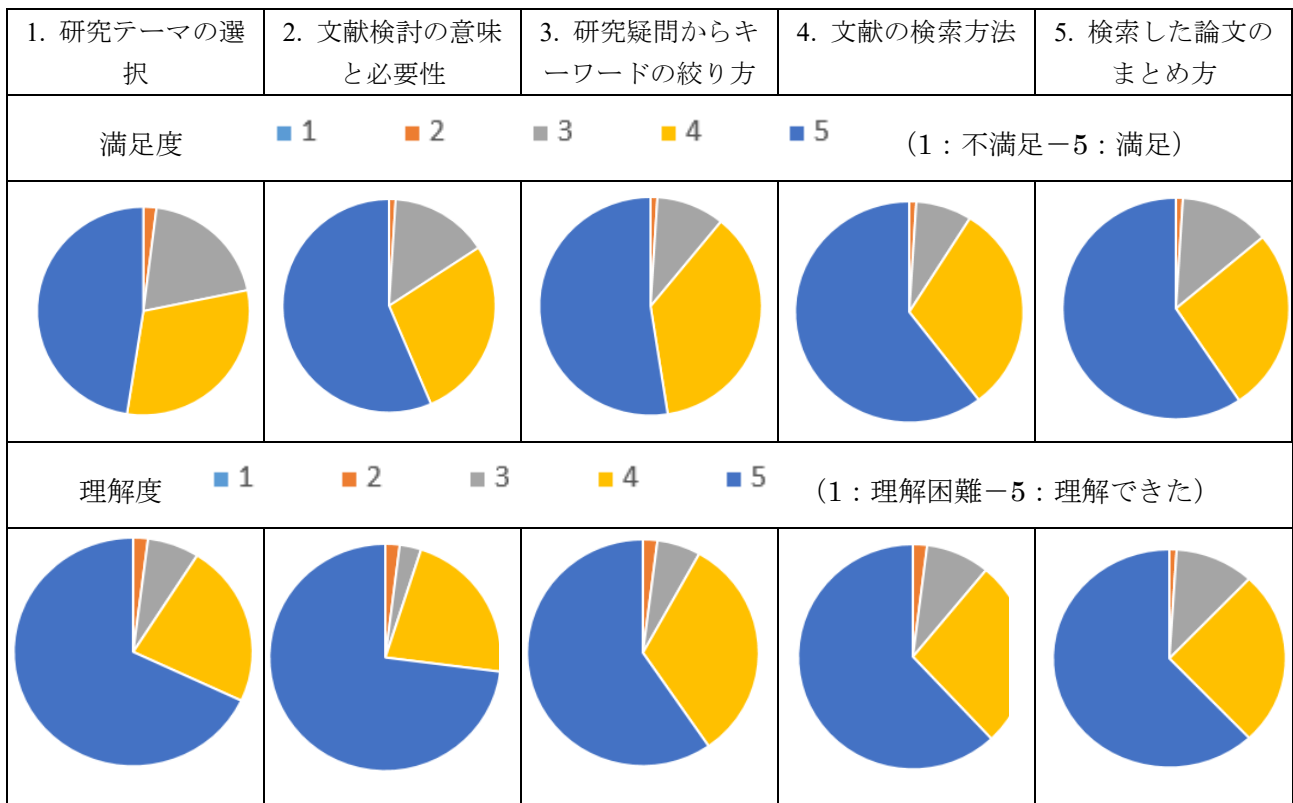
5. まとめ

- ・アンケート結果より、概ね好評であったと思われる。
- ・資料配付の要望については、学会のホームページの活用などの対応を検討する。
- ・長期的目標（論文投稿数の増加と投稿論文の質の向上を目指す）を視野に入れて、次年度に向けてテーマ選定、レディネス別の開催や経費などの検討が必要である。

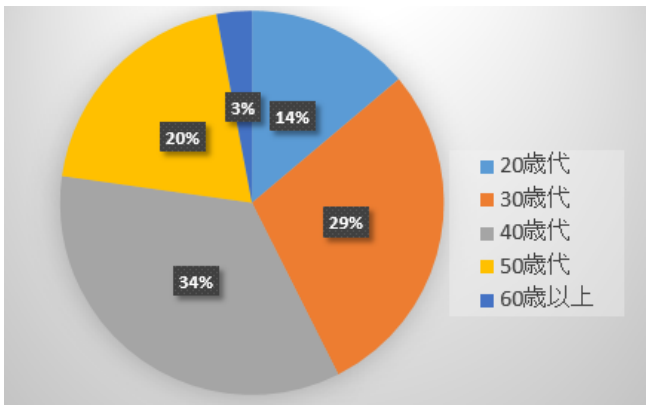
2018年3月3日 「第1回 研究を始めよう！ 臨床疑問を研究テーマに～文献検討のいろは～」
ワークショップアンケート結果

1. 今回のワークショップの満足度・理解度 (1: 不満足-5: 満足) 平均±SD

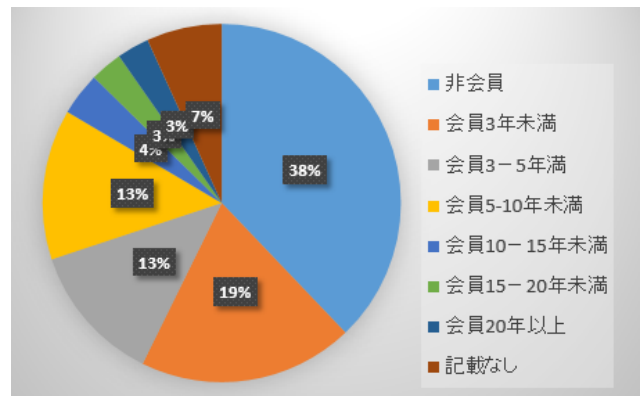
	満足度 (n=101)	理解度 (n=100)
1. 研究テーマの選択	4.24 (±.838)	4.57 (±.714)
2. 文献検討の意味と必要性	4.40 (±.776)	4.66 (±.639)
3. 研究疑問からキーワードの絞り方	4.41 (±.710)	4.43 (±.705)
4. 文献の検索方法	4.50 (±.687)	4.49 (±.745)
5. 検索した論文のまとめ方	4.45 (±.755)	4.49 (±.732)



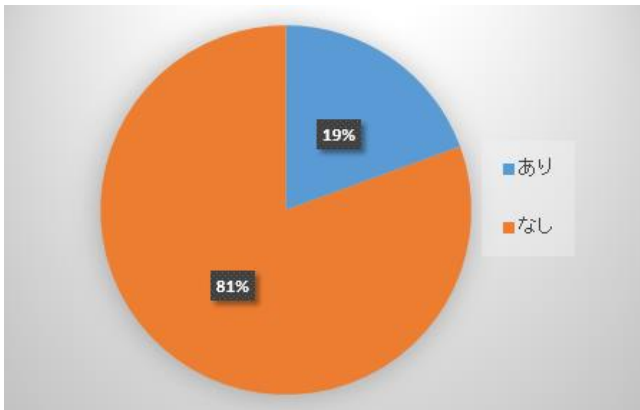
①年齢 (n=101)



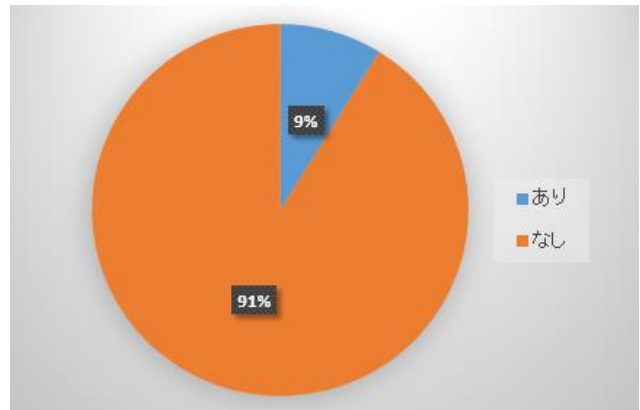
②会員歴 (n=103)



③投稿経験 (n=103)



査読経験 (n=102)



④所属

複数回答が多かった。多かった順に、教育研究機関 34名、病院31名、大学院修士（助産学研究コース）8名、大学院修士（助産師養成コース）6名、大学生4名、助産所4名。大学院博士は3名、修士（研究コース）と病院両方に○が3名。他様々な組み合わせで1～2名。